２０２４年度　文学部聴講生

講義要項

(西洋史学専攻抜粋)

中央大学　文学部

2024.4 - 2025.3

科目名: 西洋史概説A **担当教員: 杉崎 泰一郎**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 水1 配当年次: 1･2年次配当

科目ナンバー: LE-HT1-H101

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:19 更新者: AA0015 更新日時: 2024-01-06 07:28:57

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

古代ギリシア・ローマから、長い移行期を経て中世に至る社会や文化の歴史を、広い視点と新しい学説に立って、文字と図像の史料を紹介しながら考察する。

科目目的

古代から中世にかけての西洋の歴史について、新しい視点を踏まえて理解を進める

到達目標

西洋史についての知識を得るとともに、考察する方法を学ぶ

授業計画と内容

１．ガイダンス
２　古代ギリシアのポリス：アテナイ（アテネ）を中心に
３　共和政ローマ
４　カエサルと帝政に向かうローマ
５　帝政ローマ
６　帝政ローマ期の社会
７　古代中世移行期
８　中世の教会：教皇、司教、司祭など聖職者
９　中世の世俗権力者：王、諸侯、戦士
１０　中世の農村
１１　中世の都市と商業
１２　ルネサンスの開花
１３　中世から近世への移行期
１４　まとめと総括

※大きな講義の流れは変わりませんが、各回のテーマは変更することもありますので、あらかじめご了承ください

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業内容を十分に理解していること
レポート	0%	
平常点	30%	毎回講義後に提出するコメントを出席とし、平常点とする。出席が3分の２に満たない場合はE判定とする。

その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
✔ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

受講者に随時質疑応答をする

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはなし。レジュメを配布する。参考文献は授業のなかで適宜、紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋史概説B **担当教員： 佐々木 真**

履修年度：2024 学期：後期 開講曜日時限： 水1 配当年次：1･2年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-H102

登録者：admin 登録日時：2023-10-19 07:01:20 更新者：AB3759 更新日時：2024-01-07 22:16:44

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語（その他の言語名）

授業の概要

19世紀以降のヨーロッパ近代に成立したさまざまな思想や制度は、依然として今日の我々の社会の多くの部分を規定している。本講義では、国民国家や自由主義、資本主義など、ヨーロッパ近代に誕生した思想や制度についてトピック的に解説することを通じて、これらの思想や諸制度がどのような意味を持っているのか、また、それらが現代社会にどのような影響を与えているのかを解説する。

科目目的

この講義で学習する内容の多くは、高等学校の世界史や政治経済で触れたことのある内容である。だが、受講生は個々の事象についての知識を持っていても、それぞれがどのように関連しているのかを理解しているとは言いがたい。本講義では、西洋近現代史において重要な概念について解説することにより、この時代の特色を俯瞰できるようにし、その後の研究の基礎となる力を身につけることを目的とする。

到達目標

授業を通じて、西欧近代の特徴やその特徴と現代との関係を理解すること、また、それにより、今日の社会の仕組みや理念をよりよく理解し、現代を生きる力を養うことが最終的な目標である。

授業計画と内容

第１回　ガイダンス・導入
第２回　前提としての前近代の国家と社会
第３回　近代の政治（1）国民国家の形成
第４回　近代の政治（2）ナショナリズム
第５回　近代の政治（3）国民国家形成：国民の定義
第６回　近代の政治（4）国民国家形成：国民の形成
第７回　近代の政治（5）近代における軍事
第８回　近代の経済（1）資本主義と経済的自由主義
第９回　近代の経済（2）経済統制をめぐって
第10回　近代の経済（3）社会主義
第11回　近代の思想（1）棲み分け・隔離・管理の思想
第12回　近代の思想（2）近代的家族とフェミニズム
第13回　近代の思想（3）子供と学校）
第14回　総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業内容の理解度を判定するために、講義終了後に毎回小テストを実施する。小テストの受験にあたっては、授業の内容をよく復習すること。また、状況によっては、事前課題を出す場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験　30％　毎授業後の小テストの成績
期末試験　70％　期末に筆記試験を実施する。
レポート　0％

平常点　　0%
その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

小テストについて、毎回授業とは別に解説動画を配信する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を進める。西洋近現代史の概説書を読んでから授業に出席することで、講義内容に対する理解を深めることができる。初回授業で概説書の一覧を配布する。また、各講義ではそれぞれのトピックに関わるより専門的な著作・論文を紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 西洋古代史／西洋古代史A **担当教員: 松原 俊文**
履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 水3 配当年次: 1～4年次配当
科目ナンバー: LE-WH1-H301
登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:25 更新者: gakubuadmin 更新日時: 2024-01-16 12:39:39

履修条件・関連科目等

高校「世界史B」（2022年度以降「世界史探求」）程度の古代ローマ史の知識を前提として講義を進めるので、開講前に高校教科書の該当箇所を読み直し、古代ローマ史の大まかな流れや出来事を掴んでおくことが望ましい。

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ローマ帝国は古代世界における西半球最大の国家であり、西ヨーロッパから中近東、黒海沿岸から北アフリカにまたがる広大な地域を版図に含んでいた。ローマの影響下にあった地域では、その物質文化のみならず、制度やシンボリズムといった精神文化も現在に至るまで様々に受容されている。ゆえに当該地域を学ぼうとする者にとって、「ローマ」は一度は通らねばならない道であろう。本講義では、共和政期、共和政から帝政への過渡期、帝政期それぞれから、初学者にも比較的なじみのあるローマ史上のテーマを取り上げ、その問題点を検証する。

科目目的

古代ローマ史に関する重要なテーマを、教科書や参考書から一歩踏み込んで考える能力を習得することを目的とする。

到達目標

本授業は、以下を到達目標とする。
・ 古代ローマ史を例に、「歴史はどのようにして作られるのか」を理解できるようになること。
・ 同時代の証言や史料に含まれている問題を認識できるようになること。

授業計画と内容

第 1回 古代ローマ史の概要と問題点 1：ローマ史の時代区分（講義ガイダンス含む）
第 2回 古代ローマ史の概要と問題点 2：ローマ史概略
第 3回 古代ローマ史の概要と問題点 3：後代に生まれた「ローマの歴史」
第 4回 「共和政ローマ史」の誕生 1：「共和政ローマ史」の情報源
第 5回 「共和政ローマ史」の誕生 2：共和政ローマの文化的記憶
第 6回 「共和政ローマ史」の誕生 3：家伝と共和政ローマ史
第 7回 「共和政ローマ史」の誕生 4：膨張し続ける過去
第 8回 アウグストゥスの元首政像 1：元首政とは何か
第 9回 アウグストゥスの元首政像 2：共和政の復活？
第10回 アウグストゥスの元首政像 3：元首政の成立？
第11回 ローマの平和とは何か 1：共和政期の戦争と平和
第12回 ローマの平和とは何か 2：「平和」か「支配」か
第13回 ローマの平和とは何か 3：人類がもっとも幸福で繁栄した時代？
第14回 総括・まとめ
（授業の進み具合によって、スケジュールの調整やテーマの増減を行う場合がある）

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後は配信された資料を再読し、その内容についてどのような講義を行ったか復習すること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験　0%
期末試験　60%　最終授業日に教場試験を実施する。講義内容を踏まえた解答であるかどうかを評価する。
レポート　0%
平常点　40%　教場授業への参加度で算定する。
その他　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

manabaの掲示板や個別指導（コレクション）で質問や提言等があった場合は、個別にフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義のテーマごとに資料を配信する。

その他に人名や地名に関する一般的な参考文献として：
・ バウダー編『古代ローマ人名事典』『古代ギリシア人名事典』 原書房、1994年
・ タルバート編『ギリシア・ローマ歴史地図』 原書房、1996年
・ 松原國師『西洋古典学事典』 京都大学学術出版会、2010年
・ Hornblower, S., Spawforth, A. (eds.), Oxford Classical Dictionary (4th ed.), Oxford, 2012.
・ Cancik, H., Schneider, H. (eds.), Salazar, C. F. (Eng. ed.), Brill’s New Pauly, Leiden, 2002-2010.
・ Gagarin, M. (ed.), The Oxford Encyclopedia of Ancient Greece and Rome, Oxford, 2010.

オフィスアワー

その他特記事項

・ 資料として原典の邦訳テキストや図版は配信するが、講義を聴いてノートを取ることが必須である。
・ manabaからのメールの受信設定をして、コースニュースや個別指導（コレクション）による教員からの連絡をすぐに確認できるようにすること。

参考URL

備考

科目名: 西洋中世史／西洋中世史A **担当教員: 三浦 麻美**
履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 木3 配当年次: 1～4年次配当
科目ナンバー: LE-WH1-H302
登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:26 更新者: AC8572 更新日時: 2024-01-05 17:46:35

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この授業は西洋中世の社会とジェンダーを基本テーマとし、宗教と思想の観点から論じる。中世では性別役割分担が明確であり、男性が聖俗両界で地位の優越をめぐって争う一方、女性の主要な役割は後継者の確保と死者の追悼による救済の獲得であった。初期には王家や貴族家門のみが特権的に行っていた宗教実践が時代は時代が下るにつれて拡大し、教会組織が確立するにつれ、より広い階層の女性たちが教会の教えに従って生活することが政治・経済・文化の一部に組み込まれていく。この過程とそれによって生じたジェンダー観の変遷を理解し、西洋中世の社会が持つ独自性を考える。

科目目的

前近代ヨーロッパにおけるジェンダーに関する思想と社会における実態を具体例にもとづいて理解する。それにより現代日本のジェンダー観を批判的に考察するための知識の習得を目的とする。

到達目標

・ヨーロッパ中世におけるジェンダーの概念を理解し、特徴とその変遷について時代背景と関連づけて考察することができる。
・関連する主要なテーマ（教会改革や王権など）について具体例を挙げて他者に説明できるようになること。

授業計画と内容

第1回 ガイダンス
第2回 古代における女性観
第3回 初期中世社会の法と宗教
第4回 創出される聖性と女性
第5回 教会改革とジェンダー
第6回 女子修道院長と権力
第7回 結婚をめぐる諸問題
第8回 俗人女性と聖性
第9回 都市におけるベギン
第10回 神秘主義者の女性たち
第11回 境界を越える
第12回 異端と魔女への迫害
第13回 世襲王権とジェンダー
第14回 まとめと総括

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で扱ったテキストや紹介した文献、視聴覚的素材について復習し、授業内容への理解を深めることが望ましい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%
期末試験 60% 期末に試験を実施し、授業内容への理解を踏まえた解答ができているかを評価する。
レポート 0%

平常点　　40%　毎回のリアクションペーパーをもとに、授業への参加態度並びに内容理解を評価する。
その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。
参考文献は授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

講義内容は受講生に合わせて変更する場合がある。

参考URL

備考

[1E0021H30301]

科目名: 西洋近世史／西洋近世史A **担当教員: 野々瀬 浩司**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金3 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H303

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:26 更新者: AD1164 更新日時: 2023-11-02 16:31:02

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では１６世紀を中心にヨーロッパ全体の歴史を概観します。講義内容としては、中世キリスト教社会が動揺し、各地に主権国家が成立する以前の時代の歴史について、政治・社会・経済・宗教・思想・文化などの様々な視点から考察することを主眼としたいと思います。具体的にはルネサンス・宗教改革・対抗宗教改革・宗教戦争などについて講義します。基本的には幅広い地域を対象とするが、とりわけ西ヨーロッパを中心に言及したいと考えます。現在のところ、以下のようなテーマで授業を進めていく予定ですが、場合によっては若干変更することもあります。

Ⅰ近世ヨーロッパ社会の特質
Ⅱルネサンス
①イタリア・ルネサンス
②北方ルネサンス
Ⅲ宗教改革と近代社会
①ドイツの宗教改革とルター派の拡大
②スイスの宗教改革（ツヴィングリのチューリヒ、再洗礼派の形成、カルヴァンのジュネーヴ）
③イングランドの宗教改革（ヘンリ８世、エドワード６世など）
④対抗宗教改革（トリエント公会議、イエズス会など）
Ⅳ宗派対立と宗教戦争
①シュマルカルデン戦争とアウクスブルクの宗教和議
②ユグノー戦争とナントの王令
③三十年戦争とウェストファリア条約

科目目的

近世ヨーロッパの歴史、特に16世紀の西洋史を学ぶことを通して、中世社会と近世社会との間の連続面についての理解を深めると同時に、その断絶面や中世から変化した側面を把握し、さらには近現代社会が形成された基盤を理解する。このことは、今日のヨーロッパ社会が抱えている諸問題、例えばスコットランドやカタルーニャの独立問題、宗派対立・宗教対立、様々な戦争観、個人と共同体の関係などの背景や起源をより深く理解することにつながる。以上のような内容を学ぶことが、本科目の目的である。

到達目標

上記の目的の達成のために、具体的には以下の目標を設定する。
（１）ルネサンスと人文主義の意義と役割を学び、近代的な個人の成立過程を理解することができる。
（２）宗教改革の具体的経過とその思想的本質を学習することを通して、各宗派の思想的な相違や宗派対立の本質を把握することができる。
（３）宗派対立や宗教戦争の具体経過とキリスト教の戦争観を理解することによって、それから生まれた寛容思想の内実とその変遷への理解を深めることができる。

授業計画と内容

第１回　ガイダンス・導入：近世ヨーロッパ社会の特質

（１）　ルネサンス
第２回　①：イタリア・ルネサンスⅠ
第３回　②：イタリア・ルネサンスⅡ
第４回　③：北方ルネサンス

（２）宗教改革と近代社会
第５回　①：ドイツの宗教改革とルター派の拡大Ⅰ（神聖ローマ帝国内の宗教改革など）

第６回　②：ドイツの宗教改革とルター派の拡大Ⅱ（北欧の宗教改革など）
第７回　③：スイスの宗教改革（ツヴィングリのチューリヒ）Ⅰ
第８回　④：スイスの宗教改革（カルヴァンのジュネーヴ）Ⅱ
第９回　⑤：イングランドの宗教改革（ヘンリ８世、エドワード６世など）
第10回　⑥：対抗宗教改革（トリエント公会議、イエズス会など）

（３）宗派対立と宗教戦争
第11回　①：シュマルカルデン戦争とアウクスブルクの宗教和議
第12回　②：ユグノー戦争とナントの王令
第13回　③：三十年戦争とウェストファリア条約Ⅰ
第14回　④：三十年戦争とウェストファリア条約Ⅱ　　総括とまとめ

授業の進展状況によっては若干変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業中に提示した参考文献の中から興味を持った書籍を選んで講読し、講義内容の理解を深めてください。随時多くの参考文献を提示します。図書館を積極期に利用してください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	実施しません。
期末試験	85%	講義内容に関連した範囲内で、学期末に対面で試験を行う予定です。
レポート	0%	実施しません。
平常点	10%	出席は毎回とります。
その他	5%	毎回ではないが、何回かリアクションペーパーを提出してもらう場合もある。

成績評価の方法・基準（備考）

試験の内容や形式については、授業中にアナウンスします。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
✔ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

場合によっては、授業のなかでリアクションペーパーを書くための課題や見解を提出してもらいます。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

場合によっては、授業のなかでリアクションペーパーを書いてもらいます。

実務経験のある教員による授業

✔ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書（テキスト）は使用しません。毎回レジュメを配布します。参考図書としては、以下のものを推奨します。

参考書
①エルンスト・トレルチ著『ルネサンスと宗教改革』岩波文庫、1959年。
②ピーター・バーク著『イタリア・ルネサンスの文化と社会』岩波書店、2000年。
③野々瀬浩司著『ドイツ農民戦争と宗教改革』慶應義塾大学出版会、2000年。
④ペーター・ブリックレ著『ドイツの宗教改革』教文館、1991年。
⑤C.V.ウェッジウッド著『ドイツ三十年戦争』刀水書房、2003年。
⑥ウルリヒ・イム・ホーフ著『スイスの歴史』刀水書房、1997年。
⑦ベルント・メラー著『帝国都市と宗教改革』教文館、1990年。
⑧マックス・ヴェーバー著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1989年。
⑨P.H.ウィルスン著『神聖ローマ帝国：1495-1806』岩波書店、2005年。
⑩J.ホイジンガ著『エラスムス』ちくま学芸文庫、2001年。
⑪野々瀬浩司著『宗教改革と農奴制』慶應義塾大学出版会、2013年。
⑫中野隆生・中嶋毅共編『文献解説西洋近現代史Ⅰ：近世ヨーロッパの拡大』南窓社、2012年。
⑬R.W.スクリブナー、C.スコット・ディクソン共著『ドイツ宗教改革』岩波書店、2009年。
⑭A.E.マクグラス著『宗教改革の思想』教文館、2000年。
その他随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

近世ヨーロッパ史、特に16世紀の歴史に興味のある学生を歓迎します。できることならば、高校の世界史を十分に履修した学生が望ましいです。日本史で受験した学生は、世界史の教科書を事前に読んできてください。また、理解の補助のために、短いビデオなどの視覚教材を使用することもあります。

参考URL

備考

[1E0021H30401]

科目名: 西洋近代史／西洋各国史(4)A **担当教員: 石橋 悠人**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 火2 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H304

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:26 更新者: AA1733 更新日時: 2023-12-15 19:39:11

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、近世・近代のイギリス史を「時間」という観点から多角的に捉え直すことにしたい。時間の観念とそれに関わる制度・慣習は、商取引、航海術、鉄道運行、労働など、社会経済の多様な側面を規定する根本的な要素であり、その歴史的な変遷を考える意義は大きい。この授業では、近代イギリスを具体的な対象としながら、時間意識の変化、労働や移動と時間との関係、時計技術の発達と正確化、時計と消費文化、時間の表象、帝国主義と時間規律、ヴィクトリア朝的価値観と時間認識、グリニッジ世界標準時の成立などの主題について論じる。

科目目的

近世・近代イギリスの政治・経済・社会・文化・国際関係と時間概念の関係について、基礎的な論点を理解することが目的である。

到達目標

時間概念の変化という観点から、近代イギリス史の流れを説明することができる。
産業革命や帝国主義などの世界史的に重要な出来事と時間意識の関係を説明することができる。

授業計画と内容

〇授業の予定
1. ガイダンス
2. 機械時計の誕生と時間秩序
3. 近世の時間秩序　時計産業
4. 近世の時間秩序　人々の時間の使い方
5. 経度計測と時間
6. 産業革命の始動
7. 産業革命と時間意識
8. 時間と帝国主義
9. 時間・宣教・帝国の文化
10. 標準時の誕生
11. 世界標準時の形成
12. グローバルな時間の変化
13. 交通・通信革命と時間
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験　0%

期末試験　100%　授業内容に関する論述問題への回答の水準により評価する。（参照物の持ち込みは一切不可）
レポート　0%
平常点　0%
その他　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

- ✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

授業の最後に受講生からの質問やコメントの時間をとる。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✔ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

配布資料を中心に講義を進める。
講義に関わる参考文献等は、毎回の授業内、または、manabaで紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021H30501]

科目名: 西洋現代史／西洋近現代史A **担当教員: 堀内 隆行**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 火1 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H305

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:27 更新者: AA2342 更新日時: 2023-11-07 12:37:28

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリーを、担当者の専門である南アフリカの事例に即して論じる。まずこのテーマを、世界システム論からグローバル・ヒストリーへという研究史のなかに位置づける。次いで政治学者ベネディクト・アンダーソンのナショナリズムの4類型を振り返り、南アフリカが、これら4類型すべての展開してきた特異な国であることを確認する。さらに歴史家キース・ブレッケンリッジの生体認証国家の議論などに学びながら、指紋の管理にもとづく統治モデルが南アフリカから世界へ伝播したことを跡づけたい。

科目目的

この科目は、学生がナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリーに関する基礎的知識を修得し、歴史研究における理論と実践との関係について理解を深め、また現代世界を見る目を養うこと、さらに学位授与の方針で示す「幅広い教養」と「複眼的思考」を習得することを目的とします。

到達目標

この科目では、学生がナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリー、あるいは歴史研究における理論と実践との関係について他者に説明できるようになることを到達目標とします。

授業計画と内容

第1回 オリエンテーション
第2回 世界システム論
第3回 グローバル・ヒストリー（テキストにもとづくグループワーク）
第4回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ1：クレオール・ナショナリズム1（テキストにもとづくグループワーク）
第5回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ2：クレオール・ナショナリズム2
第6回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ3：言語ナショナリズム
第7回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ4：公定ナショナリズム
第8回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ5：植民地ナショナリズム
第9回 生体認証国家1：植民地インドにおける指紋（テキストにもとづくグループワーク）
第10回 生体認証国家2：帝国主義
第11回 生体認証国家3：南アフリカにおけるガンディー（テキストにもとづくグループワーク）
第12回 生体認証国家4：広がりと限界
第13回 生体認証国家5：アパルトヘイト
第14回 総括・まとめ：ナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリー再考

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配られる関連資料に目を通して理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%
期末試験 50% 授業内容に関する論述問題への回答の水準により評価する。
レポート 0%

平常点　　50%　毎回の授業で提出する小レポートの水準により評価する。
その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献
・堀内隆行『異郷のイギリス―南アフリカのブリティッシュ・アイデンティティ』（丸善出版、2018年）。
・同『ネルソン・マンデラ―分断を超える現実主義者（リアリスト）』（岩波新書、2021年）。
・キース・ブレッケンリッジ（堀内隆行訳）『生体認証国家―グローバルな監視政治と南アフリカの近現代』（岩波書店、2017年）。

オフィスアワー

その他特記事項

提出された小レポートのいくつかに対しては、次の授業の初めに担当者から返答やコメントをする。また、グループワークの内容について授業中に担当者から学生へ質問も行う。それゆえ、講義形式ではあるものの、学生との対話を盛り込んだ、一定程度双方向的な授業になる。

参考URL

備考

[1E0021H30601]

科目名: 西欧史／西洋近世史B **担当教員: 佐々木 真**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 水2 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H306

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:27 更新者: AB3759 更新日時: 2024-01-08 10:04:11

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

戦争の歴史を考える
フランスのロレーヌ地方出身の画家、ジャック・カロJacques Callot（1592-1635）は、その晩年に三十年戦争（1618-48）に遭遇し、1633年にその悲惨さを「戦争の惨禍」と題して、18枚の銅版画に記録した。カロが描写した掠奪の光景は、ドイツの作家グリンメウスハウゼンHans Jakob Christoffel von Grimmelshausen（1621-76）の『阿呆物語』でも言及されており、民間人の殺人や暴行、物の掠奪はこの時期の戦争に必ず付随する事象だった。その後、19世紀にはハーグ条約に代表されるように戦争を「文明化」する努力がなされた。しかし、第二次世界大戦では過去最大の犠牲者を記録し、むしろ民間人の犠牲の方が多い現象が生じている。また、ウクライナやガザなど、国家間の紛争の解決手段としての戦争は終わる気配を示しておらず、民間人の犠牲もとどまるところを知らない。
本講義では、前近代からの長い時間軸にそって、今日まで戦争のありかたがどのように変化したのかを考えてみたい。この時、前近代の戦争のあり方を明らかにすることで、19世紀以降の戦争を相対化し、今日の問題を考える一助としたい。

科目目的

時代ごとの戦争のありかたや戦争にかんする理論の変遷を理解することで、戦争という現象を歴史的に理解することを目的とする。

到達目標

前近代から近代にかけての戦争のありかたや戦争にかんする思想を検討することで、戦争を広い視野から理解し、現在行われている戦争を相対化することを最終的な目的とする。

授業計画と内容

第1回 はじめに
第2回 古代と中世の戦争
第3回 前近代の戦争における掠奪（1）：人の掠奪
第4回 前近代の戦争における掠奪（1）：物の掠奪
第5回 近世の戦争（1）：戦争の実態
第6回 近世の戦争（2）：戦争の目的その帰結
第7回 近代への転換：国民国家の成立と戦争
第8回 戦争理論の誕生
第9回 戦争の「文明化」
第10回 第一次世界大戦：総力戦の誕生
第11回 第二次世界大戦の惨禍（1）：国民・人種・戦争
第12回 第二次世界大戦の惨禍（2）：民間人への攻撃
第13回 戦争の記憶をめぐって
第14回 総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業終了後に内容に関するまとめや質問を記入するリアクション・ペーパーを集める。また、状況に応じて、事前に読むテキストを指定する場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。

・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	80%	期末に実施するテストの点数。
レポート	0%	
平常点	20%	リアクション・ペーパーの内容で評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

毎回、授業開始時あるいはビデオ配信でリアクションペーパーに対する解説や質問への回答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、配付資料を中心に授業を行う。参考文献については、授業中にリストを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 中欧史／西洋各国史(5) **担当教員: 舟橋 倫子**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 水2 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H307

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:27 更新者: AB5965 更新日時: 2023-12-30 18:41:39

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ヨーロッパの主要な国としてはイギリス、フランス、ドイツなどの名がすぐに挙がる。しかし、英仏が台頭してくるのはようやく17世紀になってからである。それに対して西欧の中央に位置しているネーデルラント（ベルギー・オランダ・ルクセンブルク）は、５世紀にヨーロッパの中心となって以来、先進地域として大きな影響力を行使してきた。中世フランク王国の心臓部であり、十字軍の時代を先導し、英仏百年戦争の要となる繊維産業で空前の繁栄を謳歌し、豊かな北方ルネサンスが花開き、宗教戦争時には多様な人々を共同体のメンバーとして受け入れ、大航海時代にフランドル諸都市が世界経済の要となった。ヨーロッパの十字路に位置していたがゆえに繁栄もしたが、度々他国の侵略を受け、戦場にもなった。現在、国を超えた連帯と政策を実行する国際機関EUとNATOの本部がブリュッセルに置かれていることは、当該地域がヨーロッパの中心として機能していることを端的に示している。

本講義では、ベルギー・オランダに視点を定め、そこから見えてくるヨーロッパ史を多角的に考察する。この地域を理解することにより、複雑なヨーロッパ、さらには世界の問題がみえてくるのである。これらの国々は大国の狭間で翻弄されてきたからこそ、時に戦い、特に妥協と合意の道を探り、人と物の移動に柔軟に対応して寛容で多様性のある独自の社会を形成してきた。この地域の人々は、自らの歴史を振り返るとき、しばしば「勇敢で寛容な」という表現を用いる。彼らは共同体を結成して近隣の大国と対等にわたりあい、都市や地域の自治を誇り、自由を愛し、他者を寛容に受け入れつつも、自由と自治を守るために他国の支配に対して勇敢な獅子のように戦った歴史があるからである。この授業では古代から近現代までのネーデルラントの歴史の分析から、外部に開かれた共同体であり続けることによって経済発展を実現させ、柔軟で多岐的な独自の社会集団を作り上げてゆくダイナミズムを検討する。

科目目的

世界や歴史を考える場合に、私たちは今現在の物差しに捉われて物事をみてしまいがちです。既存の概念や意識への刷り込みから自由に物事を見ることができたら、世界は新しい姿で私たちの目前に姿を現すことでしょう。現在の国家という枠組みからヨーロッパを理解しようとすると、そこからはみ出した部分を見落としてしまいます。そのことによって総合的な歴史の把握が困難な状態を自ら作り出してしまうことになります。このジレンマを抜け出すためには、ヨーロッパ全体の動き常に意識し、「現在」前提とする直線的な物の見方にブレーキをかけることが必要です。

この科目で対象とするネーデルラントは、ヨーロッパの十字路に位置し、合従連衡の要として何世紀にもわたって世界をリードしてきました。この地域に視点を定めた考察を行うことによって、他者との関係性の中で作り上げられてゆくヨーロッパの歴史の本質に迫ることできると考えます。西洋史学専攻科目の選択科目であるこの科目の学習を通じて、学生が新たな視点からヨーロッパ、そして世界を再発見することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

・ベルギー・オランダという国の成り立ちや文化的な特徴について基本的な知識を習得すること。
・それらがヨーロッパや世界において、大きな影響力を持っていた理由を説明できること。
・ヨーロッパ社会を構成する地域や個々人のアイデンティティがどのようにして形成されてきたのかについて、ネーデルラントの視点から説明し、現代社会に求められる柔軟で多様な共同体モデルを提案できるようになること。

授業計画と内容

第１回　現在のベルギー・オランダ：地理的特徴と文化：人々の意識と日常生活：言語問題
第２回　古代から中世へ：ローマからフランクへ
第３回　フランク王国の中心地としての機能：多様な文化の結節点
第４回　封建制の成立と領邦の形成：地域社会の成立
第５回　低地地方の都市の発展
第６回　都市社会の諸側面：格差の拡大と救貧活動
第７回　ネーデルラントの政治的統一への道
第８回　百年戦争の時代：フランス・イギリスとの関係
第９回　15・16世紀のネーデルラント絵画
第１０回　ブルゴーニュ家からハプスブルク家へ
第１１回　ネーデルラント連邦共和国へ：16世紀後半ヨーロッパ国際政治の一大焦点
第１２回　17世紀オランダ：黄金時代の経済と文化
第１３回　絶対王政からベルギー独立へ
第１４回　まとめ：既存の国家制度の向こうへ・未来への展望

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✔ その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業は対面で行います。やむを得ない理由で出席できない学生は、マナバで公開されるレジュメとスライドを活用して自習してください。授業中（最後の５分間を作成時間にあてます）に毎回リアクションペーパーを提出して頂きます。感想や質問を書き込んで下さい。次の授業で質問をまとめて回答を提示し、補足の説明を行います。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	70%	最終授業において持ち込み可（自筆ノートと配布資料・レジュメ）の試験を行います。～について説明しなさいという問題を複数出題し、各自が記述する形とします。授業内容を理解し、自分としての考察ができることが評価基準となります。
レポート	0%	
平常点	30%	授業終了後に、毎回提出するリアクションペーパーを平常点とします。授業内容のまとめという受動的なものではなく、授業に対する自身の考えや感想という主体的な内容を書くことが評価基準となります。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特にテキストを指定しない。毎回レジュメと参考資料を配布する。参考文献についてもその都度紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

質問は直接受けますが、リアクションペーパーで提出してもかまいません。manabaのお知らせや掲示板を学生との連絡方法として利用します。高校世界史程度の基礎知識があることを前提として授業を行いますが、試験も持ち込み可ですので、暗記が必要な授業ではありません。経済格差や社会福祉、差別や言語問題、食文化や美術史などの具体例を色々取り上げて授業を進めますので、様々なことに興味を持って授業に臨んでくれることを期待します。

参考URL

備考

[1E0021H30801]

科目名: 南欧史／西洋各国史(3)B **担当教員: 黒田 祐我**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 火5 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H308

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:28 更新者: AD0662 更新日時: 2024-01-07 23:54:17

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✔ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

地域からみるスペイン史の諸問題

現在のスペインとポルトガルが位置するイベリア半島は、南北ではヨーロッパ大陸とアフリカ大陸との、東西では地中海圏と大西洋圏とが十字に交錯する、まさに異なる文明、異なる宗教や文化がぶつかり合いながら独自の諸文化がはぐくまれる場であり続けた。
１）本講義の前半部分においては、古代から現代にかけて、どのような歴史をたどって現在のスペインという国民国家が成立するにいたったのかを通史的に論じる。
２）後半部分においては、まずイベリア半島の地理的特徴を確認しながら現在のスペインを構成している地域ごとの歴史の展開、地域文化の独自性あるいは特殊性を分析しながら、スペインという「くに」がもつ特魅力と可能性について論じる。

科目目的

我々が所与の政治単位とみなしている「国民国家（英語のNation-State, スペイン語のEstado-Nación）」は、近現代という時代に固有の歴史的発明に過ぎず、この政治単位を自明のものとすると、現在のスペインの政治状況や、諸問題を理解することができない。
その特殊な地理的条件によって、「西洋」「東洋」「ヨーロッパ」「アジア」のすべての要素を含みながら歴史を紡いできたイベリア半島の歴史と文化を学ぶことによって、西洋史のみならず世界の歴史のなかで人々が行ってきた多様な営みに関する深い知識を修得することを本講義は目的としている。

到達目標

本講義は、以下を到達目標とする。
１．ヨーロッパ世界のなかでのイベリア半島がたどった歴史の全体像を把握できるようになること。
２．「スペイン」という国民国家単位に縛られず、同国家内に併存している豊かな文化的多様性について、基礎的な知識を獲得すること。

授業計画と内容

第1回 はじめに ～イベリア半島史のダイナミズム
第2回 古代の歴史
第3回 中世の歴史（１）～カスティーリャ王国～
第4回 中世の歴史（２）～アラゴン連合王国とナバーラ王国～
第5回 中世の歴史（３）～アンダルス（イスラーム・スペイン）～
第6回 近世の歴史 ～栄華と没落～
第7回 近代の歴史 ～「国民国家」の形成～
第8回 現代の歴史 ～統合と分離をめぐって～
第9回 「スペイン」の地理的多様性
第10回 地域の歴史と文化（１）～地中海沿岸部をめぐる状況
第11回 地域の歴史と文化（２）～中央部カスティーリャをめぐる状況
第12回 地域の歴史と文化（３）～北部バスク・ガリシアをめぐる状況
第13回 地域の歴史と文化（４）～南部アンダルシーア・ムルシアをめぐる状況
第14回 総括：「スペイン」の来し方行く末

授業時間外の学修の内容

- ✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✔ 授業終了後の課題提出
- ✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

本講義は、以下の自己学修が要求される。
１．事前にmanabaにアップされるレジュメを各自ダウンロードして、目を通しておく。
２．講義聴講後、要点を整理して、コメントシートを出す。
３．各回の講義に加えて、適宜紹介される参考文献を各自で読み込んで、期末レポートの準備を行う。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験　0%

期末試験　0%

レポート　70%　レポート評価基準
①問題設定、扱う具体的事例、結論との間に整合性があるか
②自らの見解を説得的に提示できているか
③参考文献を用いたのであれば、それが的確に明記されているか

平常点　30%　毎回のコメントシートの提出をもって評価する。
評価基準）各回の内容をきちんと把握して課題に取り組んでいるか。

その他　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。

参考文献については、各回の授業で関連するものを適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

本講義は中学・高校で習った世界史に関する基礎的な知識を前提として進められる。よって未履修者は事前に世界史の流れを各自で学習しておくこと。

参考URL

備考

[1E0021H30901]

科目名: 東欧・北欧史／西洋各国史(2)B **担当教員: 飯尾 唯紀**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 木1 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H309

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:28 更新者: AD0072 更新日時: 2024-01-09 14:23:18

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

題目「ヨーロッパ東部世界の歴史的展開と環境 ー中・近世を中心に」

この講義では、中世から近世までのヨーロッパ東部をとりあげ、この地域の政治構造と経済発展、文化変容について理解を深めます。特に焦点をあてたいのは、地理的条件や自然環境というファクターの影響力です。工業化以前の世界では、環境（地形、河川、植生、気候など）の拘束力が、今日の世界とは比べ格段に大きく、想像以上に政治や経済、文化に影響を与えたと考えられるからです。

対象とする場所は、バルト海と黒海・アドリア海にいたる南北に広がる地域です。この地域の中核には中・近世にかけ、ハンガリー王国、チェコ王国、ポーランド王国が成立・発展していました。特に焦点を当てるのはハンガリー王国ですが、北欧やロシアなど周辺世界との共通点と差異、影響関係についても吟味します。封建制、三圃制、宗教改革などヨーロッパ史でおなじみの主題が、ヨーロッパ東部でどのような変奏を繰り広げるかを見ることを通じて、ヨーロッパ史理解を見直す手がかりをえることがこの授業の狙いです。

科目目的

・この科目は、カリキュラム上、西洋史学専攻専攻科目群（選択科目）に位置づけられており、この科目の学習を通じて、学生がヨーロッパ東部の歴史的展開と前近代の環境要因の重要性について認識を深めることを目的としています。
・この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」と「複眼的思考」を習得することを目的としています。

到達目標

(1) ヨーロッパ東部地域の中・近世史について基礎的な知見をえる。
(2) 工業化以前のヨーロッパにおける地理・自然環境の歴史拘束性について、新しい研究成果を知る。
(3) ヨーロッパ東部の歴史的展開を学ぶことにより、西欧中心のヨーロッパ史理解を相対化する視点を深める。

授業計画と内容

（１）中・東欧世界の形成
第1回 イントロダクション（ガイダンス、講義の基本視角）
第2回 地理的環境と時代区分
第3回 中世社会の形成
第4回 中世国家の類型的理解

（２）近世の政治と経済
第5回 統合的権力の伸長（ハプスブルクとオスマン）
第6回 地域社会のエリートたち
第7回 中近世の経済と社会

第8回 中間のまとめ（小テスト含む）

（３）宗教と社会
第9回 中世末期の信仰世界
第10回 宗教改革と宗教寛容
第11回 帝国の宗教政策と宗派ネットワーク

（４）環境と社会
第12回 中近世のドナウ川
第13回 ドナウの戦い
第14回 展望：近世から近代へ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	25%	前半の授業内容と提示された参考文献の内容を理解し、正確に問いに答えることができること。
期末試験	0%	
レポート	50%	授業内容を理解した上で、各自の問題関心にひきつけて文献調査を行い、発展的にレポートを作成することができること。
平常点	25%	授業内容を理解したリアクションペーパー（Manaba小テストで実施）を記入すること。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
・レジュメを配布する

【参考文献】
〇講義全般、背景理解に関わるもの

・南塚信吾（編）『ドナウ・ヨーロッパ史』（山川出版社、1999年）
・伊東 孝之，中井 和夫，井内 敏夫（編）『ポーランド・ウクライナ・バルト史 』（山川出版社、1998年）
・『中欧・東欧文化事典』（丸善出版社、2021年）の関連する項目

〇個別の主題にかかわる参考文献は、各回の授業中に紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021H31001]

科目名: 南北アメリカ史／西洋近現代史B **担当教員: 戸田山 祐**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 水2 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H310

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:28 更新者: AD0019 更新日時: 2024-02-04 12:47:46

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では、ヒスパニック(Hispanic)あるいはラティーノ(Latino)と称される、ラテンアメリカに出自を持ちアメリカ合衆国内に暮らす人々に焦点を当て、南北アメリカの関係史およびアメリカ合衆国の政治・外交史を考察する。

科目目的

現在のアメリカ合衆国（以下、米国と表記する）では、ヒスパニック(Hispanic)あるいはラティーノ(Latino)と称される、ラテンアメリカに出自を持つ集団が急速に存在感を増している。ヒスパニック／ラティーノは近年の米国への移民の流入と結びつけられて語られることが多い集団であるが、実際には米国の成立から間もない19世紀前半から同国内に住み続けてきた。また、その歴史は米国とラテンアメリカの関係史と密接に結びついている。したがって、米国の歴史を学ぶうえでも、南北アメリカ全体の歴史を考えるためにも、ヒスパニック／ラティーノについて知ることは有益であろう。

本授業では、米国内の「人種」／エスニック集団としてのヒスパニック／ラティーノの形成過程に焦点を当てたうえで、米国とラテンアメリカのあいだに存在してきた人・資本・文化の流れおよび、このような流れのあり方を形作ってきた米州関係（南北アメリカ諸国間の国際関係）の動態について歴史的に考察する。また、本講義では、米国の政治史におけるヒスパニック／ラティーノの位置付けについても論じる。ヒスパニック／ラティーノは、出身国・出身地域も文化的な背景も多様であり、イデオロギーや政党支持の面でも複雑な様相を呈する集団であるが、政治参加を含むさまざまな回路を通じて、ヒスパニック／ラティーノとしての共通のアイデンティティや相互の結びつきはしだいに強まる傾向にあるともいわれている。また、総人口に占める移民の比率が高い集団であり、いわゆる「移民問題」や国境警備をめぐるイシューと結び付けられて言及されることも多い。米国の国内政治の歴史と現状を世界の他国・他地域とのかかわりという視点から考えるためにも、本講義ではヒスパニック／ラティーノに注目したい。

以上の問題関心に即して、本授業は、米国の政治制度・政治史および米州関係史の全体にかかわる要点を時代・テーマごとに説明しつつ、ヒスパニック／ラティーノの動向を各回のテーマに関連付けて論じるという形で実施する。

到達目標

以下がこの授業の目標である。

1. 受講者は、19世紀前半から21世紀初頭までの南北アメリカの歴史について、国家間・地域間の関係に注目して考える視座を得る。

2. 受講者は、19世紀前半から21世紀初頭までのアメリカ合衆国の政治の歴史的展開およびアメリカ合衆国の政治制度についての基礎的な知識を得る。

3. 受講者は、多様な人々が暮らす社会における集団間の関係について、歴史的背景と制度的要因に着目して考える視座を得る。

授業計画と内容

第1回 授業のオリエンテーション、ヒスパニック／ラティーノとはどのような人々か
第2回 米国の政治制度概観、米州関係史総説
第3回 米国の領土拡大と米州関係 - 米墨戦争と米西戦争
第4回 南北アメリカへの移民の流入、南北アメリカから米国への移民
第5回 大恐慌、ニューディールとメキシコ系アメリカ人の政治運動・労働運動
第6回 政党政治と人種／エスニック・マイノリティ - メキシコ系アメリカ人と民主党
第7回 移民政策をめぐる内政・外交とヒスパニック／ラティーノ - メキシコ人ゲストワーカーとメキシコ系アメリカ人
第8回 「ゆたかな社会」とヒスパニック／ラティーノ - プエルトリコ人の「本土」への移動
第9回 キューバ革命と冷戦下の米国の難民政策
第10回 ベトナム戦争とヒスパニック／ラティーノ - 「軍事的市民権」と反戦運動
第11回 公民権運動・公民権政策とヒスパニック／ラティーノ・アイデンティティの形成
第12回 米国の「移民問題」とヒスパニック／ラティーノ
第13回 近年の米州関係とヒスパニック／ラティーノ
第14回 近年の米国の国内政治におけるヒスパニック／ラティーノ有権者の動向

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✔ その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業で配られた資料はかならず持ち帰り、読み返して復習すること。

授業の各回で扱うテーマに関係する文献を随時紹介する。レポートの執筆にはこれらの文献が必要となるので、興味を持ったテーマにかんする本や論文には目を通しておくこと。

成績評価にかかわるレポートの執筆に必要な専門的な内容の文献を自ら探し出す力を養うために、次のサイトの使い方に慣れておくこと。https://ci.nii.ac.jp/

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	80%	期末レポートの体裁や内容を基準に評価する。とりわけ、以下の点を重視する。 ・パラグラフ・ライティングができているか。 ・授業内容に加えて、専門的な観点から議論が展開されている文献（学術書や学術論文）も参照したうえでレポートが書かれているかどうか。
平常点	20%	・授業への出席。 ・授業内容へのコメント・質問（manabaに提出すること）の程度や内容。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
✔ ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

本授業で使用するテキストは資料等の提示をもって代えることとする。

以下は、授業全体の内容にかかわる参考文献の例である。この他、授業の各回で、個別のテーマにかかわる文献を紹介する。

参考文献
岡山裕『アメリカの政党政治』中公新書、2020年。
久保文明他編著『マイノリティが変えるアメリカ政治 - 多民族社会の現状と将来』NTT出版、2012年。
貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2018年。
紀平英作編『アメリカ史』山川出版社、1999年。
高橋均、網野徹哉『世界の歴史18 ラテンアメリカ文明の興亡』中央公論社、1998年。
ナイ、メイ・M（小田悠生訳）『「移民の国アメリカ」の境界 - 歴史のなかのシティズンシップ、人種、ナショナリズム』白水社、2021年。
中野耕太郎『20世紀アメリカの夢　シリーズ　アメリカ合衆国史3』岩波新書、2019年。
西山隆行『移民大国アメリカ』ちくま新書、2016年。
西山隆行『アメリカ政治講義』ちくま新書、2018年。
古矢旬『グローバル時代のアメリカ　シリーズ　アメリカ合衆国史4』岩波新書、2020年。
増田義郎・山田睦男編『ラテンアメリカ史I メキシコ・中央アメリカ・カリブ海』山川出版社、1999年。
増田義郎編『ラテンアメリカ史II 南アメリカ』山川出版社、2000年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

授業担当者の業績および経歴については以下を参照されたい。
https://researchmap.jp/2029

備考

[1E0021H31101]

科目名: 西洋テーマ史(1)／西洋各国史(3)A **担当教員: 白川 耕一**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金2 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H311

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:29 更新者: AC7978 更新日時: 2024-01-06 18:00:27

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

題目「ホロコーストの震源地―ドイツ、オーストリア、チェコスロヴァキアにおけるユダヤ人迫害と殺害―」

歴史家トニー・ジャッドは「ヒトラーの死から60年、彼の戦争とそれがもたらした諸結果は歴史となりつつある。ヨーロッパの戦後は長く続いたけれども、それが最終的に結末を迎えつつある」と記しています（同『ヨーロッパ戦後史（上）』（みすず書房　2008年（原著は2005年））。最近の歴史学研究では、戦争終了から平和が訪れるまでの移行期を「戦後期」と呼ぶことがありますが、ジャッドによれば、第2次世界大戦の「戦後期」は21世紀初頭まで続いたことになります。その「戦後期」が終了したはずの21世紀初め、第2次世界大戦像をめぐる論争がヨーロッパ各地で噴出しています。

ホロコーストとは、第2次世界大戦中におけるナチス・ドイツによるユダヤ人殺害を表す言葉です。数年間、私は講義で、欧米諸国が第2次世界大戦中におけるユダヤ人の迫害と殺害に対してどのように反応したのかを扱ってきました。なぜなら、ユダヤ人迫害と殺害をナチス・ドイツの特有の現象と見ずに、ドイツを震源地としたヨーロッパ全体にかかわる問題として考えているからです。本講義では、「震源地」であるドイツ、ドイツが最初に侵攻し、併合した地域（オーストリア、チェコ・スロヴァキア）における反ユダヤ主義政策の導入と殺害に至る展開をたどります。

科目目的

現在、歴史像をめぐる厳しい紛争が各地で発生しています。それは、過去の見え方は決して変化しないものではなく、時代や人々の意識によって変化するからです。授業においては、ナチス・ドイツが一方的に反ユダヤ主義をオーストリアやチェコ・スロヴァキアに押し付けたという見方をとりません。オーストリアやチェコ・スロバキアで導入された反ユダヤ主義政策がどのように違うのか、ユダヤ人や現地の人びとの反応にも注目したいと思います。

到達目標

(1) ヨーロッパ現代史を学ぶ上で、必要な知識を獲得する。
(2) ナチス・ドイツにおけるユダヤ人迫害の展開を説明することができる。
(3) オーストリアやチェコ・スロヴァキアにおいて採られた反ユダヤ主義政策の特徴を説明することができる。
(4) 第2次世界大戦後のドイツ、オーストリア、チェコ・スロヴァキアにおけるユダヤ人迫害に対する扱いを説明することができる。

授業計画と内容

講義計画
第1回　はじめに
第2回　ナチスの政権掌握と反ユダヤ主義政策（1933年）
第3回　ドイツ・ユダヤ人の国外亡命
第4回　ユダヤ人政策の急進化（1938年）
第5回　行政による反ユダヤ主義政策
第6回　ドイツ人の意識における「ユダヤ人」の姿―ナチス・ドイツの宣伝と効果-
第7回　ナチ支配下の反ユダヤ主義政策（1）オーストリア
第8回　ナチ支配下の反ユダヤ主義政策（2）チェコ・スロヴァキア
第9回　ナチスの民族政策とユダヤ人迫害との関係-ナチ占領下ポーランド―
第10回　ホロコーストの展開（1）：いつ大量殺害が発生したのか？
第11回　ホロコーストの展開（2）：オーストリアのユダヤ人
第12回　ホロコーストの展開（3）：チェコ・スロヴァキアのユダヤ人
第13回　第2次世界大戦後のドイツ、オーストリア、チェコ・スロヴァキアにおけるユダヤ人
第14回　まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✔ その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

講義を受講する前、受講しながら、芝『ホロコースト』またはベーレンバウム『ホロコースト全史』のいずれかを受講者が読んでおくことを希望します。

ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害と殺害については、ジェラテリー 『ヒトラーを支持したドイツ国民』がナチ政府の反ユダヤ主義政策に対するドイツ人の反応がよくわかります。

オーストリアやチェコ・スロヴァキアにおけるユダヤ人迫害と殺害については、日本語で読めるものはあまりありません。野村『ウィーン　ユダヤ人が消えた街』はユダヤ人迫害と殺害だけでなく、19世紀から現在までのオーストリアにおけるユダヤ人の状況や戦後における迫害の歴史への向き合い方（「過去の克服」）も論じている好著です。ギッシング『キンダートランスポートの少女』は、チェコ人少女からみたユダヤ人迫害が記されています。英語文献のワイマン編『ホロコーストに対する世界の反応』（Wyman（ed.）, The World reacts to the Holocaust）は各国別にユダヤ人の迫害・殺害の経過、戦後における動きが簡便にまとめられており、オーストリア、チェコスロヴァキアを扱った章があります。授業の進行にあわせて適宜読み進めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業で扱った内容に関する理解を問う、論述形式の筆記試験をおこないます。（論述形式で1200字程度）。
レポート	0%	
平常点	30%	授業後に史料読解に関する課題を出題します（2回程度）。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

学期末の筆記試験においては、以下の点にご注意ください。
・試験中、参考書、書籍、ノート、メモなどの参照は一切できません。
・試験問題と講義内容から著しく逸脱した答案は成績評価の対象になりません。
・解答は文章化してください。箇条書きの答案は採点の対象外とします。
・授業時に配布した資料で、内容が不足する場合には、参考文献などを参照して補ってください。
・自主的な試験勉強の成果が答案上に認められる場合により高い得点を与えます。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
指定しません。授業においては、プロジェクターで授業資料を投影しながら、授業を進めます。授業中の投影した資料は印刷し、受講者に配布します。

文献目録
【概説書、辞典など】
木村 靖二（編）『ドイツ史（新版 世界各国史13）』（山川出版社 2001年）
南塚 信吾（編）『ドナウ・ヨーロッパ史（世界各国史19)』（山川出版社 1999年）
レオン・ポリアコフ（菅野賢治他訳）『自殺に向かうヨーロッパ（反ユダヤ主義の歴史第Ⅳ巻）』筑摩書房　2006年）
レオン・ポリアコフ（菅野賢治他訳）『現代の反ユダヤ主義（反ユダヤ主義の歴史第Ⅴ巻）』筑摩書房　2007年）
ウォルター・ラカー（望田幸男他訳）『ホロコースト大事典』（柏書房　2003年）
David S. Wyman(ed.), The World reacts to the Holocaust, John Hopkins UP 1996.

【ドイツ】
バーリー／ヴィッパーマン（柴田敬二訳）『人種主義国家ドイツ　1933－1945年』（刀水書房　2001年）
ロバート・ジェラテリー（著), 根岸 隆夫（訳)『ヒトラーを支持したドイツ国民』（未来社　200８年）

【ホロコースト】
栗原優『ナチズムとユダヤ人絶滅政策―ホロコーストの起源と実態―』（ミネルヴァ書房　1997年）
芝健介『ホロコースト―ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』（中公新書　2008年）
『戦争と平和（岩波講座世界歴史　第25巻）』（岩波書店　199７年）
永岑三千輝『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆　1941-1942』（同文舘　1996年）
永岑三千輝『独ソ戦とホロコースト』（日本評論社　2001年）
永岑三千輝『ホロコーストの力学』(青木書店　2003年)
永岑三千輝『アウシュヴィッツへの道―ホロコーストはなぜ、いつから、どこで、どのように』(春風社　2022年)
『20世紀の中のアジア・太平洋戦争（岩波講座　アジア・太平洋戦争８）』（岩波書店　2006年）
歴史学研究会編『戦争と民衆　（講座世界史8）』（東京大学出版会　1996年）（→石田勇治論文）
ゲッツ・アリー（山本尤・三島憲一訳）『最終解決―民族移動とヨーロッパのユダヤ人の殺害』（法政大学出版局　1998年）
ラウル・ヒルバーク（望田・原田・井上共訳）『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』（柏書房　1997年）
マイケル・ベーレンバウム（芝健介監訳）『ホロコースト全史』（創元社　1996年）
ヴォルフガング・ベンツ（中村浩平他訳）『ホロコーストを学びたい人のために』（柏書房　2004年）
マイケル・マラス『ホロコースト』（時事通信社　1996年）

【オーストリア／　チェコ・スロヴァキア】
野村真理『ウィーン　ユダヤ人が消えた街―オーストリアのホロコースト』（岩波書店　2023年）
ヴェラ・ギッシング（木畑和子訳)『キンダートランスポートの少女』（未来社 2008年）

【過去の克服―ユダヤ人迫害の歴史とどのように向き合うのか―】
石田勇治『過去の克服』（白水社　2002年）
望田幸男『ナチス追及―ドイツの戦後』（講談社現代新書　1990年）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021H31201]

科目名: 西洋テーマ史(2)／西洋各国史(2)A **担当教員: 鈴木 直志**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 水2 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H312

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:29 更新者: AA1439 更新日時: 2024-01-22 10:32:47

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

授業のテーマは「広義の軍事史から見たヨーロッパの歴史」。
広義の軍事史とは、軍隊を一つの社会集団として位置づけ、その上で軍隊と国家や社会との相互関係を問う研究である。この授業では、この広義の軍事史の観点に基づいて、中世から現代までのヨーロッパ史の概略を講義する。

科目目的

西洋史に関する基礎的知識を修得する。
軍隊と社会の相互関係について歴史的な視座から考える。

到達目標

ある特定のテーマ（軍隊・戦争）から西洋史の大まかな流れを把握することができる。

授業計画と内容

第１回 ガイダンス
第２回 封建制と騎士
第３回 中世世界の変容
第４回 中世の戦争
第５回 火器の発達と近世軍事革命
第６回 近世の軍隊と社会
第７回 近世の戦争
第８回 近代国民軍の成立
第９回 軍事のテクノロジー化
第10回 国民皆兵の時代
第11回 第一次世界大戦
第12回 第二次世界大戦
第13回 冷戦期以降の軍隊・戦争と社会
第14回 総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	授業内容が正しく理解されているかどうか
レポート	25%	授業中に指定された提出物
平常点	15%	リアクションペーパー提出
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

リアクションペーパーの提出が３分の２に足りなかった場合はE評価とする。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
教科書は指定しない。参考文献は開講時に指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

提出されたリアクションペーパーのいくつかに対しては、次の授業の始めにこちらから返答やコメントをする。それゆえ、講義形式ではあるものの、学生との対話を盛り込んだ、ある程度の双方向性のある授業になるはずである。

参考URL

備考

[1E0021H31301]

科目名: 西洋テーマ史(3)／西洋各国史(4)B **担当教員: 広岡 直子**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 火5 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H313

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:29 更新者: AB3280 更新日時: 2024-01-05 02:50:28

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ロシアにおける近代化を医療という観点から考察する。民衆の日常における治療と介護に近代医療がどのように受容されていったのかを深く理解するために、ロシアの風土とロシア正教の問題もとりあげる。
ロシアは、かつて日本と同じ後発資本主義国と位置付けられていたが、欧州とアジアの両面をもつユーラシア大陸を占有しており、文化・制度は日本とは大きく異なる側面を持っている。さらには、1917年のロシア革命があり、1991年にソ連が崩壊するまで社会主義体制を築いてきた。本講義では、ロシア革命前までの身分制、欧州の科学の発展、医療制度とイデオロギー、国家・地方自治のありかた、など多岐にわたる内容を取り扱うが、いずれも、医療から近代化とロシア社会の歴史的諸問題を理解するための手がかりをえるところにポイントがある。

科目目的

ロシア近代化のプロセスを医療という問題をテーマにして深く掘り下げることで、新しい歴史的認識・方法論を獲得することを目的とする。

到達目標

1．ロシア社会のわかりにくさを医療からひもとく。
2．授業で得られた視点を他地域にも応用して、新しい歴史的な視座を獲得する。

授業計画と内容

第１回 イントロダクション：ロシアの風土
第２回 ロシア文化の基層としてのロシア正教
第３回 民衆のご利益イコン
第４回 近代以前の医療： 十字行・誓願と聖なる言葉および呪文
第５回「乞食愛」と慈善に対する考え
第６回 民衆の医療空間：ズナーハリとカルドゥーンと「医師」
第７回 中間まとめ
第８回 医療における国家の役割：ツァーリの独占を経て軍医療・疫病の必要からの社会へのまなざし ～ その１
第９回 医療における国家の役割：ツァーリの独占を経て軍医療・疫病の必要からの社会へのまなざし ～ その２
第10回 ロシアにおける医師の存在
第11回 フェリシェールとはだれか：問題の所在
第12回 飢餓と感染症および乳児死亡率の高さ
第13回 帝政期ロシアの医療行政
第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストはないが、事前に印刷を指示したレジュメを印刷（強く推奨）あるいは見られるようにしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	主要なテーマや事例が理解できているか、学んだことを現在や未来への考察に活かす視点があるかを評価する。（レポートの形式で授業の最終日に提出）
平常点	70%	リアクションペーパーの提出等によって、能動的な受講を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

自主学習支援としてe-learningシステムを使って当該科目の知識を深めることができる。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

パワーポイントで授業を進める。資料は授業前に掲示するので各自印刷をお願いする。
講義に関わる参考文献等は、適宜授業で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021H31401]

科目名: 西洋テーマ史(4)／西洋古代史B **担当教員: 唐橋 文**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 月5 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H314

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:29 更新者: AA0720 更新日時: 2023-12-18 11:37:18

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

古代西アジアの文字・歴史文書・文学の三つをテーマとして、それぞれを、3回・5回・4回の授業で見ていく。まず文字（楔形文字とセム語のアルファベット）の成立と展開について概観した後、シュメール語やアッカド語などで書かれた代表的な歴史文書と文学作品を日本語ないし英語訳で読み、それらがどのような社会的・文化的・歴史的背景を持つのかを考察する。

科目目的

（1）古代西アジアの文字に関する知見を獲得する。（2）実際の文献資料の読解を通して古代西アジアの社会・文化・歴史について学習する。

到達目標

古代西アジアの文字がどのように成立し使用されたのか、また実際の文献資料がいかなる社会的・文化的・歴史的背景の下に書かれたのかを理解する。

授業計画と内容

01. ガイダンス：授業の進め方と古代西アジア史紹介
02. 楔形文字
03. 書記の教育
04. アルファベットの成立
05. シュメール王名表
06. シュメール王碑文
07. ウルナンマ法典・ハンムラビ法典
08. アマルナ書簡
09. 旧約聖書
10. 古代西アジアの神々と英雄たち
11. ギルガメシュとアトラ・ハシス（人類の創造と大洪水）
12. イナンナ・イシュタル女神神話群
13. エジプトの神話
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	70点満点
レポート	0%	
平常点	30%	クラスに対する積極的な参加・貢献度

その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

出席率70%以上を前提に、期末試験と平常点の合計によって成績評価を行う。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【参考文献】大貫良夫、前川和也、渡辺和子、屋形禎亮『人類の起原と古代オリエント』（世界の歴史1）中公文庫；小川秀雄、山本由美子『オリエント世界の発展』（世界の歴史４）中公文庫；山我哲雄『聖書時代史：旧約篇』（岩波現代文庫・学術98）岩波書店

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021H31501]

科目名: 西洋テーマ史(5)／西洋各国史(1)B **担当教員: 杉崎 泰一郎**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 火4 配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H315

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:30 更新者: AA0015 更新日時: 2024-01-06 07:47:54

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋中世の王権と教会

王権と教会の関係と変化について、フランスのカペー王権と教会の関係（10世紀から14世紀）を中心に考察する

科目目的

王権が弱体なカペー朝のフランスでは、王は教会と協力して力を伸ばして権力集中に向かった。
カペー家の奇蹟とよばれるカペー王権の強化について、教会との関わりからアプローチし、事件や制度だけでなく、王の聖性と儀礼（聖別、行列、埋葬）、慣習などから理解する

到達目標

王権と教会についての史料（日本語訳）を読みながら考察し、中世社会の特質と変化を理解する。史料としては、文献の他、ロマネスク、ゴシックと呼ばれる時代に制作された図像資料（建築、絵画、彫刻、工芸品）なども用いる。

授業計画と内容

第１回　ガイダンス
第２回　ユーグ・カペーの即位と教会権威
第３回　敬虔王ロベール２世 など初期カペー朝の王
第４回　中世の「三身分」と王　祈る人、戦う人、働く人
第５回　バイユーのつづれ織り にみるイングランド侵攻（ノルマンコンクエスト）
第６回　ルイ６世とサン・ドニ修道院長シュジェ
第７回　サン・ドニ修道院～歴代フランス王の墓所、ゴシック建築
第８回　ルイ７世と第二回十字軍
第９回　海峡をまたいだ王妃アリエノール・ダキテーヌ
第１０回 フィリップ2世～王権の拡大と教会
第１１回　聖王ルイ９世の聖遺物収集とサント・シャペル礼拝堂
第１２回　フィリップ4世～テンプル騎士団解散
第１３回　アヴィニョン教皇庁
第１４回　総括・まとめ

※なお、授業の進捗状況や大学の方針変更などに伴い、内容を変更する場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後は、プリントや授業の内容を記したノートなどをよく読み返しておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業内容を十分に理解していること
レポート	0%	
平常点	30%	出席とリアクションペーパーの提出
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

毎回講義後に提出するコメントを出席とし、平常点とする。出席が3分の２に満たない場合はE判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
✔ その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

特定のフィードバックを行う予定はないが、授業時間内に理解が進むよう努める

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
✔ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

受講者に随時質疑応答を行う

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
資料などを毎回配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考